

(仮称) 第 4 期県立高校将来構想答申骨子 (案)

第 1 章 新たな県立高校将来構想の策定について

1 策定の趣旨

- ・急速な少子化の進行と人口減少局面の継続
- ・生徒の多様な教育的ニーズに応じた学びと可能性を広げるための学習環境整備の必要性
- ・生徒一人一人の個性や背景を尊重した教育を通じたウェルビーイングの実現
- ・地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保
- ・第 3 期構想との関係性

2 構想の位置付け

- ・国の方針等との関係性について
- ・新・宮城の将来ビジョンとの関係性について
- ・宮城県教育振興基本計画との関係性について
- ・他の計画（宮城県特別支援教育将来構想等）との関係性について

3 構想の期間

- ・構想期間変更の趣旨について（期間：令和 8 年度から令和 21 年度まで）
- ・実施計画の期間について（第一次：令和 9 年度から令和 13 年度、第二次：令和 14 年度から令和 17 年度、第三次：令和 18 年度から 21 年度）

第 2 章 高校教育を取り巻く現状と課題

1 第 3 期県立高校将来構想に基づく取組の実施状況

- (1) 第 1 次実施計画に基づく取組の実施状況 (R2~R4)
- (2) 第 2 次実施計画に基づく取組の実施状況 (R5~R7)

- ・中学校卒業生数の減少に対応し、活力ある教育環境の充実を図るため、再編統合や学級減を実施した。

2 高校教育を取り巻く現状と課題

(1) 社会経済環境の変化

- ・必要となる知識・能力（デジタル、グローバル化等）の変化
- ・成年年齢の 18 歳への引き下げ
- ・急速な少子化の進行と人口減少局面の継続

(2) 県立高校の現状と課題

- ・生徒の教育的ニーズに応じた学びの多様化
- ・地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保

第3章 高校教育の創造的な再構築に向けた考え方

1 基本理念

- ・全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育を実現する。
- ・この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、魅力的な教育環境を整えるため単なる数合わせではなく、県立高校の創造的再構築を行う。

2 基本方針

- ・県内どこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保する。
- ・スクール・ミッションの再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒に合った、質の高い学びの機会を提供する。
- ・少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整える。
- ・デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。
- ・地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備する。
- ・多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進める。

3 学校配置の考え方

- これまでの構想における7地区を、各教育事務所のエリアとした5つの圏域とし、圏域ごとに下記のとおり学校を配置することとし、学校間連携やオンラインによる教育空間の拡張などにより、宮城県全体を一つの「学校」と捉え、学びの環境を整えていく。
- ・普通科については、よりスクール・ミッションを明確化するとともに、普通科改革の推進や、拠点校での難関大学等への進学に対応した教育支援の充実など、一層の魅力化を推進する。
- ・専門学科は、複数学科の統合だけでなく、学校間・学科間の連携で必要な教育を提供するなどして、人口減少が続く中でも多様な教育の提供を行う。
- ・その他、圏域の実情に応じて、生徒の多様な生活・学習スタイルに対応するための高校（アイデアルスクール、多部制及び定時制高校等）を配置する。
- ・地理的条件等により通学が困難な状況にある地域については、1学年1学級規模の小規模校の存置又は通学・移動手段の確保も検討する。

4 学校規模の考え方

- 地域の実情に応じて、一定の学校規模を確保する。
- ・人口減少を見据え、圏域ごとの必要学級数を設定する。
- ・必要学級数の設定に当たっては、私立高校の授業料実質無償化の影響も踏まえて検討する。

5 各圏域における再構築後の姿

- ・中部地区は、進学校と特色ある普通科高校のほか、専門学科の基幹校を配置する。
- ・中部地区以外は、圏域を基本として拠点校を配置するほか、特色ある普通科や専門学科は、学校・学科の連携・併置も含め、地域の特性を考慮して配置する。
- ・そのほか、アイデアルスクールやインクルーシブ教育などの多様な学びに対応する学校、一部の通学困難地域の小規模校は、地域の実情に応じて配置する。
- ・また、市立・私立高校と連携・調整しながら、県立高校が担う役割等を整理する。

第4章 高校教育の創造的な再構築に向けた取組

1 県立高校教育の質の向上の方向性

(1) 確かな学力の育成と安全・安心な教育環境の充実

- ・生徒一人一人が自らの可能性を最大限伸ばせるよう、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、生徒の学力に応じた学習環境を整備する。
- ・急速に進むデジタル社会に対応できる科学技術人材等の育成に向けて、高度な技術習得や地域等と連携した学びの環境を整える。
- ・STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進により、様々な情報を活用しながら、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成する。
- ・国際化が進展する中で、他国の文化を理解し、実社会において外国人との協働に必要な知識や技能を有する人材を育成する。
- ・変化する社会経済環境の中でも生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、生徒のニーズに即した教育環境の充実を図る。

(2) 多様なニーズに対応した教育の推進

- ・様々な個性や能力、背景を持つ生徒の求める学習スタイル等に対応しながら、共生社会の実現に向けた取組を推進する。
- ・生徒の教育的ニーズに合わせた最適な学習環境の整備や、教育課程の編成などを通じて、将来の社会的自立に必要な資質・能力や、実社会において必要な知識を育む。

(3) 教育DXの推進

- ・生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、ICTやAI等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的ナリアルの学びを組み合わせ、生徒が知識と社会のつながりを意識しながら主体的に取り組む環境を整える。

- ・人口減少・少子化が進展する中で、魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化による教育内容の充実と効率化を図る。

(4) 地域と学校の連携・協働体制の推進

- ・全国募集の実施も含め、地域と連携しながら、多様な学習環境や学習機会を設けることなどを通じて、魅力ある学校づくりを推進する。

2 時代のニーズに対応した高校の魅力化

- 進学を希望する生徒については、オンライン授業の活用やピアグループ（協働学習体制）の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境を整えることにより、全国の大学への進学など、進路の選択肢を広げる。
- 興味・関心や適性に合わせて学習したい生徒については、地域資源や社会的ニーズを反映した特色あるカリキュラムなどにより、実践的な学びに取り組むことを通じて、将来に必要な資質・能力を育成する。
- 先端技術などの専門的知識を身に付けたい生徒については、大学や企業との連携などによる高度な専門知識を学べる環境を整備することにより、専門性の高い職業分野への就職や進学に対応できる力を養う。
- 実社会で役に立つ知識を習得したい生徒については、地域の特性に応じた学科横断的な学びを通じて、地域に貢献できるような知識を育成する。

(1) 普通科

- 圏域を基本とした拠点校の配置や、進学意識の高い生徒のためのカリキュラムの充実など、環境を整備する。
- ・オンラインの活用による他の進学校などと連携した授業や課外講習の配信
- ・他の拠点校や中部地区の進学校と連携したピアグループ（協働学習体制）の形成
- 普通科改革の推進により、新たな学科の設置や地域等と連携した探究的な学びの推進など、地域の特色に応じた魅力化を図る。
- ・探究的な学びや学校の特色（防災、観光等）、地域資源（企業や商工会、大学等）、社会的ニーズ（デジタル、英語等）を踏まえたカリキュラムの導入などによる、実践的な学びの充実
- ・実践的な学びの充実に向けた、小規模校などの高校間における連携・交流
- 中等教育学校や、併設型、連携型の中高一貫教育校など、その強みが最大化されるよう実施形態の転換も含めて在り方を検討する。
- 大学との連携を強化し、大学における高度な教育や研究に触れることのできる機会等を設定する。

(2) 専門学科（総合学科含む）

- 我が県の基幹産業である農業、工業や水産に関わる専門高校を基幹校とし、大学や民間との連携により先端技術に関する学びを充実させ、その成果をオンライン等を

効果的に活用し、学校間で共有する。

- ・ 大学進学や専門性の追究など、多様な進路に対応した学びの機会の提供
 - ・ 理数系学科と工業系学科の併置などによる、科学技術者のスペシャリストの育成を目指す科学技術高校の設置の検討
 - 基幹校以外に複数の学科を横断的に学ぶことができる環境を整備し、より実社会と結びついた学びの機会を提供する。
 - ・ 農業科、工業科、商業科など専門学科ごとの魅力化に向けた環境の整備による、地域や学科の特性に応じた学びの実現
 - ・ 地域資源の活用やキャンパス制による施設の活用など、実践的な学びの機会の創出
- <各分野の学び>

①農業

- ・ スマート農業への対応など情報・デジタル技術などを活用した学びを充実させる。
- ・ 地域の特色を活かしたカリキュラムを設定する。

②工業

- ・ 複数の分野を学べるなど、柔軟な進路選択に対応できるようなカリキュラムを設定する。
- ・ 学校間や地域企業との連携により、多様な実習先を確保し、実践的な学習環境を整備する。

③商業

- ・ 農業や水産など他学科と連携し、生産から製造、販売までを総合的に学べる複合学科を設置する。

④水産

- ・ 他学科と連携し、水産資源の6次産業化など、生産から製造、販売までを総合的に学べる複合学科を設置する。
- ・ 海洋資源を活用した探究など、地域の特色を活かした学びの機会を提供する。

⑤福祉

- ・ 介護福祉士としての実務者の育成だけでなく、介護ロボット・ICT等の利活用や介護食の開発など、福祉について幅広く学べる学科を設置する。

⑥体育

- ・ スポーツの実践のほかに、スポーツ栄養やトレーニングなどの幅広い分野に関する知識の習得も図る。

⑦総合学科

- ・ 多様な学びを提供できることの特色や課題を整理した上で、総合学科が担う役割の明確化を図る。

- ・ なお、①～⑦以外の分野についても魅力化を図る。

3 多様な学びの在り方

(1) ideal スクール

○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる ideal スクールの成果を踏まえ、他地域への拡充を検討する。

・ideal スクールの他地域への展開など、学習や学校生活適応への支援の充実を図る。

(2) 定時制・通信制の在り方

・定時制高校の現状を踏まえながら、ideal スクールで取り組んだ実績を活用する。

・ニーズを踏まえ、通信制高校（課程）の機能強化や増設を行う。

(3) 特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

・共生社会の実現に向けて、高校と特別支援学校の併置等によるインクルーシブ教育を推進する。

・通級による指導の他、別室支援等による学習や学校生活への支援の充実を図る。

4 小規模校の学びの在り方

(1) オンラインの効果的な活用推進

・オンラインの効果的な活用により、小規模校における学びの質を確保する。

(2) 地域連携や学校間連携の取組

・小規模校の魅力化に向け、地域と密接に関わる探究的な学びなど、小規模校単独ではなしえない教育活動の機会を確保した学校づくりを推進する。

・学校間の連携により、学習機会を含む教育活動の機会を確保する。

5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

・オンライン教育センター（仮）の設置により、県内の学校同士だけでなく地域等との連携や海外との交流を図ることなどにより、学びの質を確保するとともに、専門的な学びや希望する進路への対応など、生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境を整備する。

・従来の遠隔授業から得られた成果と課題を整理し、オンライン教育センター（仮）の効果的な運用を行う。

第5章 将来構想の推進

1 家庭・地域・学校の協働の必要性と役割

・将来構想の推進に向けコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、家庭・地域・学校が役割分担をしながら協働する。

・市町村との連携・協働を一層推進するとともに、企業や関係団体等との連携体制等を構築する。

2 持続可能な学校教育の推進

・社会に開かれた教育課程の推進

・全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い教育を実現するための教職員の資質能力向上と働き方改革の推進

・構想の実現に向けて、ニーズを見極めながら外部リソースも積極的に活用するなど、

必要な体制の確保に努める。

3 将来構想の推進に向けた適正な進行管理

(1) 社会情勢の変化に応じた進行管理

- ・さらなる少子化の進行や国の制度改正などに応じて、必要な見直しを行う。

(2) 適正な進行管理

- ・将来構想の推進に向けた関係者による推進体制を構築し、進行管理を行う。
- ・将来構想の期間のうち、6年が経過した時点で、その内容について確認する。